

ミュージカルの創作過程

福島大学 鈴木裕美子

1. 目的

語り・歌・動作や踊りを伴うパフォーマンスは、創造的な身体表現の活動である。幼児期における身体表現の学習は、心身を開放し、コミュニケーション能力や表現力を高める。幼稚園課程「幼年体育」および保育科「体育」の授業では、感性を高め、創造力と表現力を養うために、ミュージカルの単元を設定している。本研究の目的は、ミュージカルの創作過程において、言葉・音楽・動作がどのように作品に影響を及ぼすか追跡し、楽しく有効な教材を追求することである。

2. 方法

- 1) 期間 平成10年12月～平成11年6月
- 2) 対象 平成11年度幼稚園課程3年「幼年体育」受講生 33名
平成10年度保育科2年「体育」受講生(2クラス) 58名

3) 方法

「幼年体育」および「体育」の授業で、ミュージカルの単元における、学生の反応・創作力・表現力を分析した。「幼年体育」では、ミュージカルの単元は10回目90分間であるため、前期授業の始めから毎時間ブレインストーミングのみ行い、6月に創作・発表を行った。「体育」では、ミュージカルの単元の80分×5回の授業で歌遊びから創作・発表まで実施した。

3. 結果と考察

1) 「幼年体育」ブレインストーミングの課題

- ・名作を選び、ストーリーを書いてみましょう
- ・イソップ物語をあげ、その中から1つ選んで場面を書きましょう
- ・ディズニーのキャラクターを登場させ、何かにチャレンジさせてみましょう。
- ・神話、伝説、昔話をあげてみましょう
- ・四季の変化を何かに例えて描写しましょう
- ・○○の国へ旅行に行こう
- ・“色”からイメージしたことを書いてみましょう
- ・あそび、スポーツ
- ・お天気の変化を書いてみましょう
- ・動物が登場する物語にはどんなものがありますか
- ・花が登場する物語にはどんなものがありますか
- ・童話(鈴木三重吉、浜田広介、宮沢賢治、グリム、アンデルセンなど)を取り上げ、ストーリーを書いてみましょう

2) 「体育」単元計画

- (1) 替え歌に振り付ける(ビビディ・バビディ・ブーの曲で行事の内容を)
- (2) 12ヶ月の歌に振り付ける
- (3) 既成のミュージカル音楽に振り付ける
- (4) 昔話や物語を表現する(語り・歌・踊り)
- (5) 自由課題で創作・発表

3) 福島の昔話(ラジオ福島カセットテープ収録)

「足長手長」「太郎作の初夢」「三枚のお札」「へつたれ嫁こ」「安達ヶ原の鬼婆」「狐にもらったほろ頭巾」「牛になった婆様」「鶴の恩返し」「うり姫物語」「安積の采女」

4) 「自由課題」

創作と発表

- (1) 物語を選ぶ。
- (2) 場面をク。
- (3) シナリオを作る。
- (4) 語り、歌、踊りを創作する。
- (5) キャストを決める。
- (6) 効果を考える。
- (7) 発表会。
グルーピング、シナリオ作り(テーマ、変化、独創性、まとまり)、キャストイング(一人何役でも)、動き(個人、グループ)、音楽(カセットテープ、打楽器、声、音)、衣装、踊り込み

幼年体育…「桃太郎」(2)「うさぎとかめ」
体育…「笠地蔵」「金太郎」「浦島太郎」
「白雪姫」「シンデレラ」「北風と太陽」(2)
「貧乏神」「安達ヶ原の鬼婆」

5) 評価の高かった演技

笠地蔵…(ありがとうさようなら)×4回
貧乏神…(寝るのが大好き)×2回-(働くのはイヤダ)×2回
安達ヶ原の鬼婆…(包丁を研ぎながら)今夜は生き肝イッヒツヒツ
白雪姫…全体的に台詞、衣装、ダンス

4. まとめ

オリエンテーションでは、いろいろな役を演じたい・踊りを格好良く踊りたい・注目されたい・衣装を着てみたいなど意欲的であったが、実際に課題に取りかかると、楽しいけれども、うまく出来ない・時間がかかる・発想が貧困・既成の物語の混乱など、知識や認識の確認を必要とし、創作や表現の基本にかかわる弱点を発見した。

ミュージカルの創作は、イメージと動きが容易に広がる題材を選択し、短時間で課題を解決しながら表現する学習を積み上げ、創作・表現能力が高まるにつれて、課題の自由度を増して行くと、より達成感が得られることが明らかになった。期待度や発表・鑑賞での満足度が高いミュージカルの教材を、さらに探っていきたい。